

① パルテノン多摩の活用（大階段・建物内）

●パルテノン多摩の大階段を「インスタ映え」するようにサンリオキャラクターでラッピングし、大階段を遠くから見た人が「遠くから見ると実はキティちゃんだ！行ってみよう！」というようにパルテノン多摩に興味を持って訪れ、建物内に入っていきという流れを生み出したい。

- パルテノン多摩内には、
- ・子育て世代にやさしい「フードコート」
- ・サンリオとコラボした「カフェ」
- ・多摩市の「特産品販売所」
- ・音楽室（バンド練習ができる）、図工室などがあると良い。



② ネット上で話題になるイベントの開催

●「タイムライン」で多摩市が1位になるようなイベントを開催したい。その際には、学生、NPO等の人材の豊富さや、多摩産材、団地、公園などの地域資源を活用する。

- 自ら楽しみながら、まちのことが知れて、広めたい気持ちが喚起されることを目指す。
- 活動内容としては「イベントメニューリストの作成」、「クイズラリー」、「イルミネーション」、「流しそうめん」、「防災体験」、「海の家公園版をつくる」、「有名人の作品をさがす」、「隠れ〇〇」の設置等が考えられる。



③ 魅力発信～「キャラクター」や「遺跡」の活用～

●「キャラクター」や「遺跡」を活用して、若者へ魅力発信することで、足を運んでもらい、その結果「住みたい、行ってみたい」と思ってもらえるようなイベントを開催したい。

- 「インスタ映えするスポットや聖地をつくる」、「空き家を活用したキャラクターの家」、「市民交流サイト」、「キャラクターを活用したネーミングライツ（多摩センター駅をキティ駅にする等）」、「キャラクター同士の争奪戦イベント」などテレビに取り上げられるような取り組みをしたい。

- 原付のナンバーにサンリオのキャラクターを活用するなど、実際に市に住むことで得られる特典を用意することも考えられる。



④ 「学園企業都市」～インカレサークルの設立～

●多摩市の中で、大学間（中高生を含む）のインカレサークルをつくりたい。多様な学生が集まることで規模が大きくなり、継続性が担保される。

- 民間企業と連携の上、インカレサークルの中から出てきた学生のアイデアを民間企業等が実現していくような活動をしたい。学生のモチベーションとしては、何かにチャレンジできること、実際にアイデアを実現できることである。



⑤ 「祭り」～企業と学生のコラボレーションイベント～

● 「イノベーションが生まれるまち」を目指し、「④学園企業都市～インカレサークルの設立～」でできた基盤の上に、学園と企業がコラボレーションした祭り(イベント)を開催したい。

● 【例】ナイトバザールの開催
…多摩市の強みである公園を活用し、公園に多くの出店者を呼びたい。二部制として、昼間は学生が考えたアイデアを発表し、協力者を募るイベントを開催し、夜間は学生と企業の方々飲みながら話しをするなどして、面白い空間をつくりたい。



⑥ 公園の活用 ～市民の力を活かす～

● 市民の力を活かして、多摩市の特徴である公園の活用を進めたい。市民の力を借りることで、公園の維持管理に係る費用を削減する効果も見込める。長期的には、公園活用が進んでいることが市の魅力となり、このまちを選ぶきっかけとなると良い。

● 具体的には、「公園のペンキ塗り」、「ベDESTリアンデッキと公園を活用したスタンプラリー」、「多摩市版公園カード」、「ピアガーデン」「公園内に畑を作る」等を通して、気軽に利用でき、楽しめる公園づくりを進めていきたい。



⑦ 地域資源(昆虫等)の活用 ～セミを食べる！？たこ焼きロシアンルーレット～

● 自然が多く、地域資源(昆虫等)の多さを活かして、例えば、多摩市のセミを食用として名物化するなどして人を呼びたい。

● ゲーム感覚で実施した方が人が集まるため、セミをたこ焼きの8個中2個に入れるなどとする。その後の展開としては、スイーツ化、食べ比べ、グルメ本の販売等が考えられる。



● 昆虫嫌いな人にとっては、昆虫の食用が進むことにより、多摩市のセミが少なくなることで、住み良いまちになる効果が期待できる。

⑧ 色々な人が集まれるカフェをつくる ～ Everyday find new thing 未知カフェ～

● 市内の空きスペースを活用し、市外から多様な人を呼び寄せられるような、カフェ兼イベントスペースをつくりたい。駅から近すぎず遠すぎない隠れ家的な場所で、多彩なイベントが開催したい。

● 「企業による学生向け講演会」、「テーマ別イベント」、「スポーツ観戦」、「音楽鑑賞」、「ママ友や家族の集まり」等を通して、企業にとってはリクルート、宣伝効果が見込めるほか、人脈を広げる場としての活用が図られる。

● この未知カフェを「多摩市にしかない場」ということでPRし、ブランド化を図るため、「オリジナル冊子」を作成することも考えられる。

